



ほん千ユー ナース便い

とても喜んでいただきました

田原かんがるーKIDSによる歌のプレゼント



1年が
たちます

4月1日に入職した新人看護職員が、もうすぐ1年目フォローアップ研修を行い、初心者マークともお別れを迎えます。みんな立派に成長しました。



2月10日(土)に「田原かんがるーKIDS」の子どもたちが、当院に来て歌のプレゼントをしてくれました。病院内でのイベントは久しぶりで、患者さまは写真を撮影されたり、いつもはあまり話さない患者さまも笑顔で楽しんでいました。天使の歌声でひと時の安らぎをいただきました。ぜひまた来てくださいね！



看護補助者対象の 異文化理解研修



阪奈中央リハビリテーション専門学校の吉田先生に看護補助者対象の異文化理解の研修を行っていただきました。来年度も介護技能・介護日本語を習得しているベトナム・インドネシアの方々の方々の採用があります。やさしい日本語(優しい・易しい)で関わりながら共によいケアをしていきたいと思ひます。

看護部長のひとりごと

今、TVで「不適切にもほどがある」というドラマが放送されています。コンプライアンスが厳しい令和とそれほどでもなかった昭和をタイムスリップします。

昭和の「当たり前」は令和の「不適切」"昭和"から"令和"にタイムスリップしたことで改めて感じる人々とのギャップや共感を描いています。高齢者が多く入院してきている中で、このギャップをここ最近考えさせられることが多くあります。例えば、高齢者の男性患者さんが発する「言うこと聞いとけ」「姉ちゃんかわいいな」などの言葉はセクハラやパワハラにあたりませんが、本人にとってはその時代に生きてきたので普通のこと。足でカートをよけた看護師に「行儀が悪い」と言って足をたたけば、本人は孫のような看護師に教えてあげてつつもりでも叩かれた看護師は「暴力を受けた」と思ひます。その時代に生きてきた患者さんの発言に我慢してとか、慣れてほしいとは思ひませんが、お互いの価値観が共感できれば良いですね

外来の自慢

- 1 色々なことが学べる
何事にも一生懸命
- 2 色々な科や検査など業務は多いが
明るく仕事をしている
- 3 忙しいなかでも
患者さんに優しい